

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 石城郡平町紺屋町十四
福島縣石城郡平町紺屋町十四
電話 一四三三
廣告料 一行十四字 一月五拾錢
日刊 (日曜、祭日) 休刊

町税滞納増加し 財政難の平町

四萬圓の町税滞納 遂に一 時借入の協議

平町では財界不況に見舞はれたのが最大原因をなす唯一の財源である町税の滞納額が逐年増加し現在では納税額の二割三分強に當る三萬八千九百十二圓余の巨額が未納になつてゐる、之を數年前に比較すると實に倍額以上の滞納であるため平町では遂に財政難を來し吏員の俸給や小學校教員の俸給支拂ひにも困るやうな状態になつて來た、當局では極力滞納税金の整理をなす事とし奔走中であるが俄かの徴收は決して容易でなく結局一萬圓以内の借金をする事となり二十五日平町會に附議したが、今日のやうに町税滞納の多い事は近來珍らしい事である。

石城郡各町村の 農會役員

石城郡各町村では目下農會役員選舉を行つてゐるが二十四日まで決定した分左の如し
▲渡邊村 會長安藤尾之吉、副會長木村幸博、▲評議員小野龜太郎外八名、▲議員安藤尾之吉、▲豫備議員水野直記、▲顧問高木甚惣、永山定秀、▲勿來町 ▲會長大平陸四郎、▲副會長齋藤平左衛門、▲評

洪水に悩む湯本町 暗渠の擴張工事運動

鐵道省漸やく言質を認む 十年目で曙光を認む

石城郡湯本町大字湯本小學校東に鐵道當局に陳情した結果愈々擴張工事決定の言質を得得て歸町した、該工事計劃に依れば暗渠は中二米半高さ四米で此工事實現の曉は從來汚水の氾濫に悩まされて居た町民が完全に水害から逃れることが出来ること非常に喜んで居る。
▲四倉校美化作業 石城郡四倉小學校生徒は二十三日四倉全町の美化作業を行つた

雨ざらしとなつてゐた 鐵道開通の記念碑

松ヶ岡に再建の協議

平、水戸間に日本鐵道會社線が三十日限り任期満了となるので開通した明治三十一年八月貫通去る二十二年村會に於て後任助紀念として當時の有名な詩人交役は同村書記岡部茂氏と決定し城縣出身の北野野口勝一翁撰文たが氏は水戸農學校出身三十四平舊藩主安藤信守子爵篆刻にな歳の働き盛りである。
▲統計研究會 石城郡 磐崎村、渡邊村、湯本町、玉川村の四ヶ村では聯合して二十三警備隊高等小學校に統計研究會を開催した。

短刀で左眼を刺す 杉山炭坑坑夫の兇行

區會で口論を始め

石城郡内郷村大字白水杉山炭坑の弓道試合を催す事となつた坑夫湯川大助(三三)は十九日夜競技は金的射法、尺二的八射等同村大字綴淨光院で區會を開いて勿來署着午前七時四十六分、九時二十八分の兩列車には會場を毆打した上逃げたのを追ひかけて短刀で同人の左眼を突き刺しその場に昏倒せしめたので平署に告訴された。
▲小川江議員選舉 四倉町役場に於ては二十五日午前九時より午後三時迄磐城小川江筋普通水利權組合會議員の選舉を行つた。

遠藤書記に 紀念品を贈る

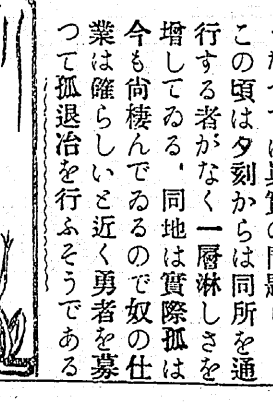
四倉座開演

平警察署管内兵事主任會は二十三日午後同署會議室で開催、席津田清美、桃中軒星衛門一行約上元平町書記遠藤五三三郎氏が十三名を招き浪花節を公演する
▲川部助役決定 石城郡川部村助役加茂元吉氏は本月前十時より開始に茨城、福島對

新宿御苑拜觀

如來寺に寄附

石城郡磐崎村役場書記白鳥宏氏外村會議員五名は新宿御苑拜觀のため二十五日東京する。
▲如來寺に寄附 石城郡四倉町新町鑛屋醬油店鈴木宇八氏は此程同町如來寺境内に工事一千圓を投じ石碑を寄附した
▲窃盜犯人檢舉 石城郡豊間村沼之内鈴木武藏(二四)は昨年二月高久村牛乳搾取業志賀國松方裏口から忍び込み衣類數点を窃取した事此程に至り發覺二十二日平署に檢舉され引續き取調中。



うなつては眞實の問題らしくこの頃は夕刻からは同所を通行する者がなく一層淋しさを増してゐる、同地は實際孤は今も尚棲んでゐるので奴の仕事は確らしいと近く勇者を募つて孤退治を行ふさうである
▲影 寺井尺一選
毒づいて出てく大屋の後ろ影 無事とも言へぬ十月溜つて 耳打ちをしてるらしい影法師 たくらみにけりく 病上り自分の影を追つて行き 婆婆に未練も少し残りて 影法師反身になつて面白し 馬鹿々々敷も素手標にて 光線が過ぎて撮影手間がこれ 若殿様の趣味の道樂 影響を受けて婦人も普通論 何々女史と云へる面相 秀 逸
大悲劇子の影へ出及を研ぎ 五郎正宗床を抜け出て 選者吟 小泥棒用水桶の影を逃げ 粗上に載つて捨てられた句 木間開石を投げれば動く影 もう一步推稿を要したい 雪洞の灯影に花の艶やかさ 無理に影を用ひぬ下五説明 隣の藏に物干愚痴が出る 影の意味吟には少々無理なり 純潔二人の戀に蝶の影 純潔と説明せず事實を捉へたい

種の話

▲種の話 甚だ非文化的な話ではあるが昨今勿來町大字白水地内の街道に孤が現はれ通行の人をバカに告げられた。
▲種の話 日計り前にも字源助町某(名を秘す)が花見のホロ酔氣嫌をさんく惱まされ家への手土産に虎の子の様に大事にした折詰を奪はれ夜明け方に歸つた外素裸で煙の真ん中に獨り角力をこつてゐる者を目撃したといふ者があり、この噂が傳はると我も我も今までも口を緘してゐた者が折詰を盗まれた途に迷つたが實證を果げる有様。嘘に近い事も

相馬支局通信

▲原町招魂祭 相馬郡
原町在郷軍人分會主催の招魂祭は五月五日夜之森公園忠魂前にて執行。

▲産婆總會 相馬郡原
町署管内産婆總會は二十六日同町岩城屋に於て開催。

▲堆肥品評會 相馬郡
大薮村農會主催の堆肥品評會は二十八、九の兩日に亘り開催する。

▲愛宕神社祭禮 相馬
郡大薮村北原鎮座村社愛宕神社春季祭禮は二十四日盛大に執行された。

▲町村技術員會議
相馬郡各町村技術員會は二十五日中村町元郡衙内に開催した。

*新開座便り
巖に原町旭座に於て上演大好評を博したる新派一行の林幸太郎一代記は二十五、六の兩日中村町新開座に於て華々敷く開演する事となり家庭教訓宗教鼓吹の旗印の下に妙見堂社前より幸太郎身延七面山荒行執念の蛇脱解迄連続上演する。

亂暴な女

日雇女を殴る
石城郡内郷村大字綴字高野作農業金成吉之助妻高木チヨ(四一)は此程同字沼尻寸田倉一方に頼んでおいた鍛が紛失したので附近の日雇業古川ヒロ(四〇)に窃盗の嫌疑をかけ去る十七日午後四時頃ヒロの頭部を毆打したので平署に告訴された。

平町人事

▲人 事
立町木崎千代造四女ミツ子、四軒町大久保勇吉二女美代死亡
五丁目當時東京市赤坂區青山北町野口勇吉(五二) 北目町當時仙臺市靈屋加藤知代(二)

二葉印刷所
平町仲町・電話一九三番

カクテール
イキタヒラテン352
イストラサロン

内科 小兒科
花柳病科
藤沼醫院
電話平町紺屋町
電話平町五〇七番

會津 銘酒
品質縣下第一
二斗樽詰 一本 二五、〇〇
一升 一、四〇〇
特約店 永山酒店
平町田町電話二〇七番

専門内科一般
内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五改(電話一八一番)
川井内科診療所
醫學士 川井重子
女 醫 川井安子
保険料低廉にして純益金の約九割を契約者に分配する純然たる相互組織の
國光生命保險相互會社
社長 伯備 中川久任
専務取締役 岩間六郎
本社 東京市京橋區銀座六丁目
平出張所 平町白銀町(電話六五〇番)

胃腸 毒梅
専門 腸胃科
腸十二指腸病 胃性病
淋病 婦人病 皮膚病
院醫科 院醫科
(七〇一話電) 町南町平

三陽製藥株式會社
久之濱新妻治郎
平町販賣店
山野邊藥局
喘息と、百日咳は
キツト治る三陽液
三五錢、六五錢

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒「栗守酒」
朝の一盃は精力の源泉、晩の一盃は休眠の助力
栗守酒特約店 大平屋藥店
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目一電四六二

耳鼻咽喉科 專
氣管食道科 門
病室完備：自炊の便あり
平町南町 大和田醫院
電話一七〇番

度量衡計量器
吸入用酸素
吸入器
關内藥局
電話四〇番

酒銘 たひら正宗
二合壘詰 二十錢
四合壘詰 四十錢
一升壘詰 壹圓
醸造元
山崎合名營業部
電話十番

外科 專
X光線科
上田外科醫院
電話一二九番
入院應需